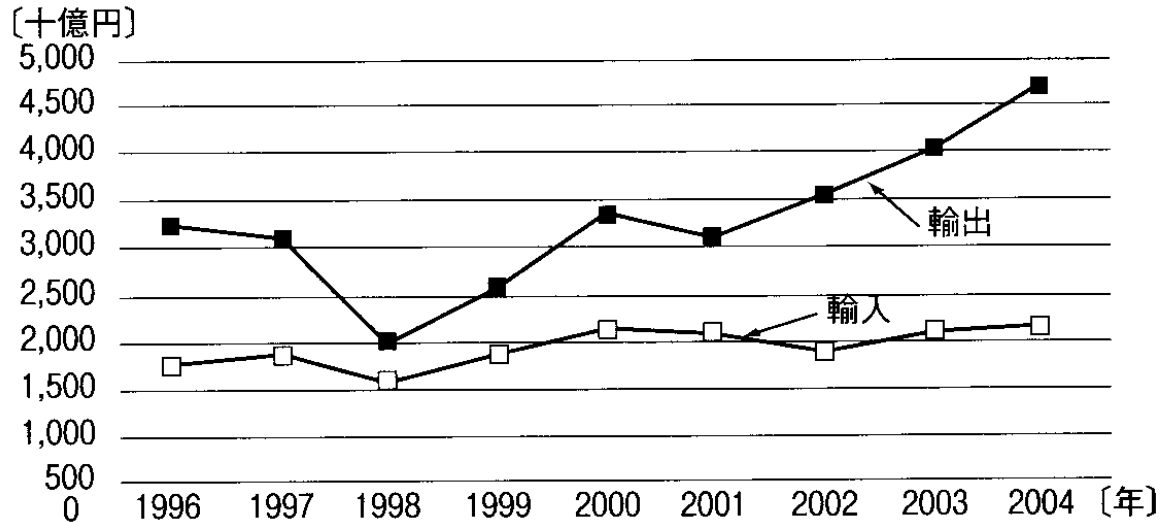
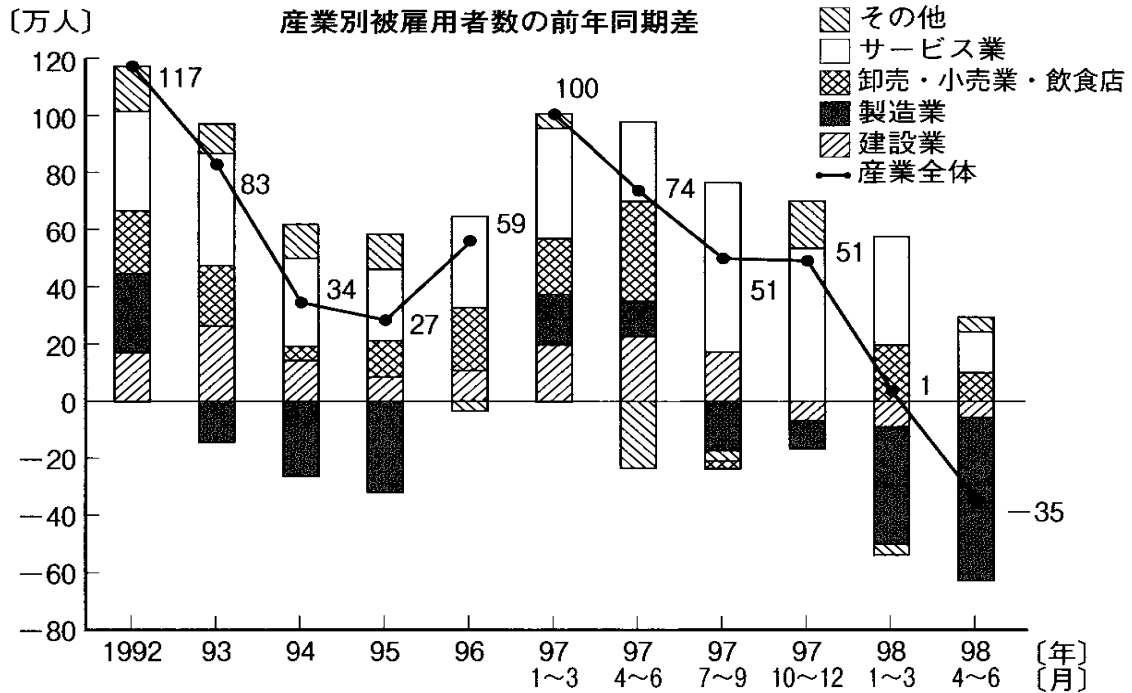


【問1】 図は、我が国のある国に対する輸出入額の推移を示したものであるがこの図から確実にいえるのはどれか。【国Ⅱ_18年度】 353_3



- 1 1996～2004年間で輸出額と輸入額の差が1兆5千億円を超えた年は5回ある。
- 2 1998年における輸出額の対前年減少率は、30%より小さい。
- 3 1998年における輸出額と輸入額の差は、2004年におけるその5分の1よりも多い。
- 4 1998年における輸入額の対前年減少率は、2001年における輸出額のそれよりも大きい。
- 5 1998年以降、輸出額と輸入額の差が年々広がっており、2004年には、その差額が輸入額を上回った。

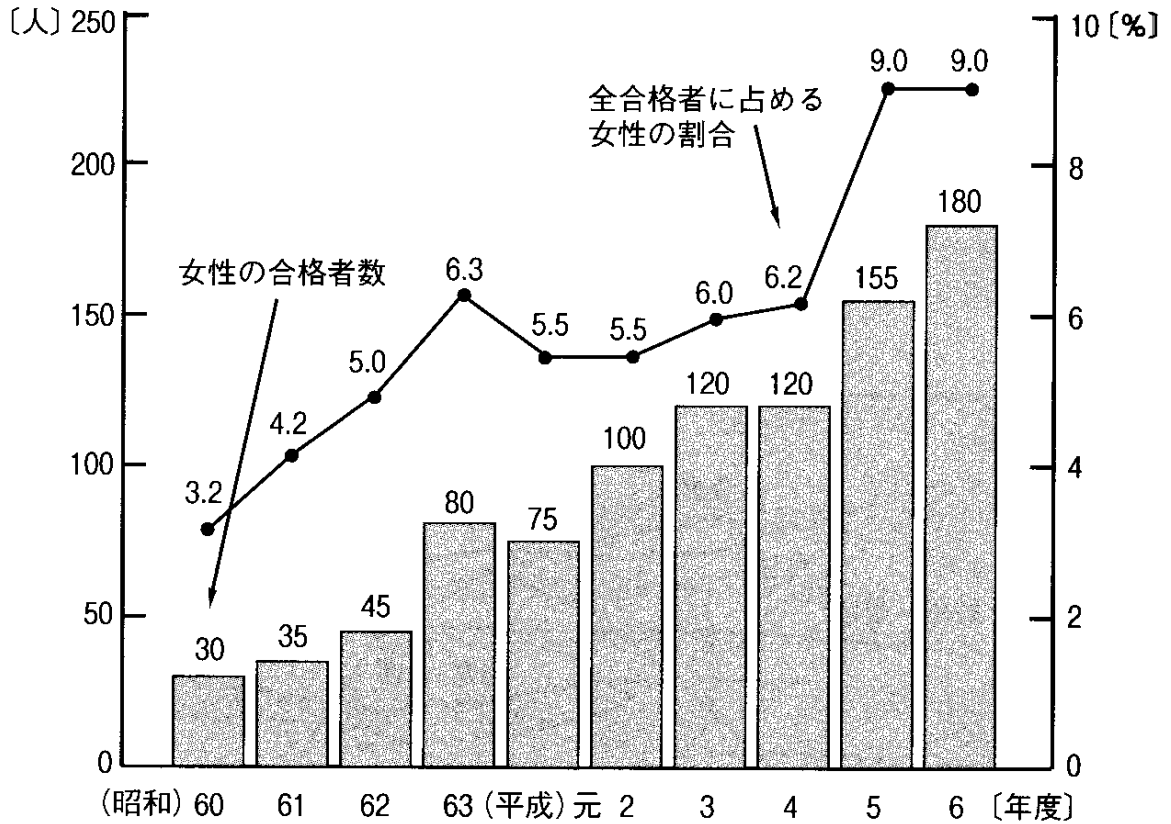
【問2】 図は被雇用者数の前年同期差を産業別に表したものである。この図からいえることはどれか。 【国税_11年度】 355_5



表中の数字は、産業全体の値を示したものである。

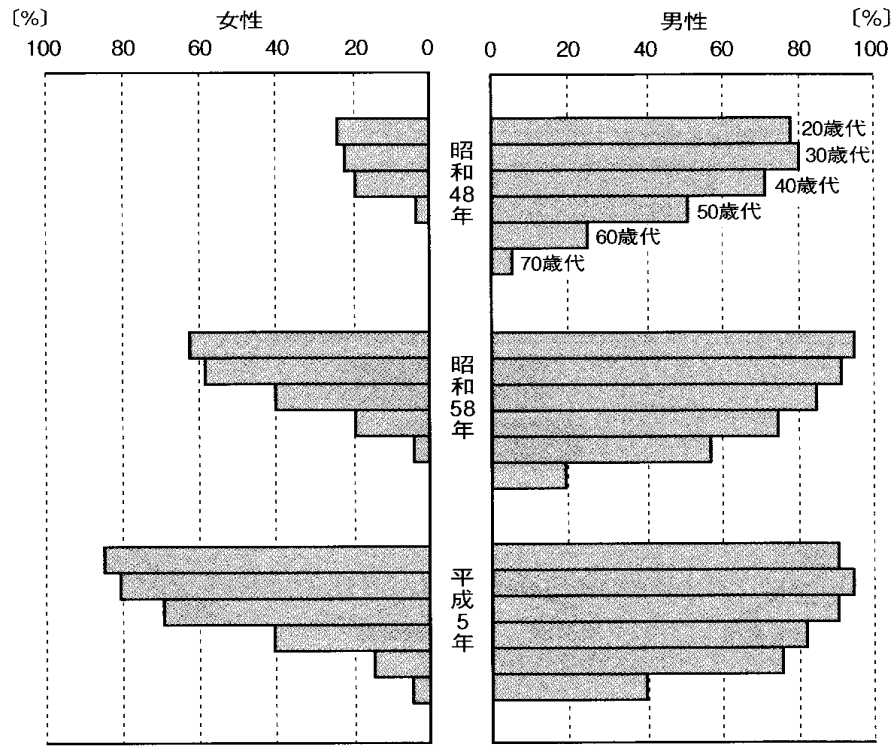
- 1 1998年1~3月期の被雇用者総数は前年同期より1万人増加しているが、1997年10~12月期より50万人減少している。
- 2 製造業の被雇用者数は1993年以降減少を続けている一方で、サービス業のそれは一貫して増加している。
- 3 1997年の7~9月期と10~12月期の被雇用者総数の前年同期差は同じであるので、被雇用者総数も同じである。
- 4 建設業の被雇用者数は、前年同期差が1997年10~12月期に減少に転じるまで増加を続け、1997年だけで約30万人増加している。
- 5 1996年の被雇用者総数は、1993年のそれより120万人増加している。

【問3】 図はある試験における女性の合格者数及び全合格者に占める女性の割合の推移を示したものである。図から確実にいえるのはどれか。 【国税__8年度】364_9



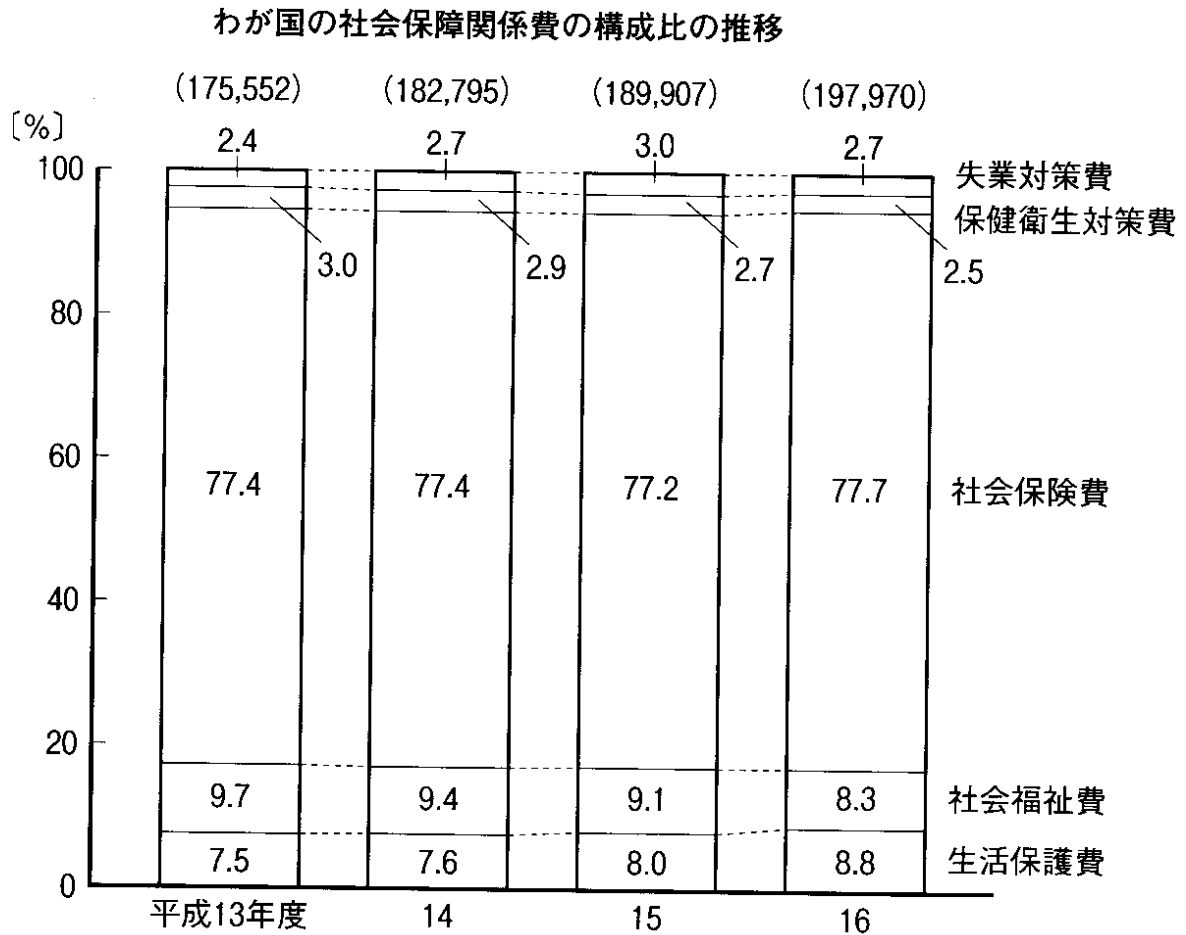
- 1 前年度より全合格者数が減少した年度には、男性合格者数も減少している。
- 2 前年度より女性合格者数が減少した年度には、全合格者数も減少している。
- 3 前年度より男性合格者数が減少した年度には、女性合格者数も減少している。
- 4 全合格者数は年々増加している。
- 5 男性合格者数は年々増加している。

【問4】 図はある都市の自動車運転免許の保有率を年齢階層別に示したものだが、これからいえることとして妥当なのはどれか。 【国Ⅱ種8年度】379_4



- 1 昭和48年の20歳代の男女全体で見ると、保有率はおおむね約50%台半ばである。
- 2 昭和58年の女性の20歳代と30歳代の保有者数を合計すると、女性の保有者全体の半分以上を占めている。
- 3 男性について平成5年を昭和58年と比べると、20歳代～40歳代の保有者の増加数の合計よりも、60歳代と70歳代の保有者の増加数の合計のほうが大きい。
- 4 女性の場合いずれの年においても、20歳代の保有率はほかの年代の保有率よりも高い。
- 5 いずれの年のいずれの年齢階層においても、男性の保有者数が女性の保有者数を上回っている。

【問5】 次の図から正しくいえるのはどれか。 【地上_17年度】 382_7



【注】 () 内は、社会保障関係費の合計〔単位：億円〕を示す。

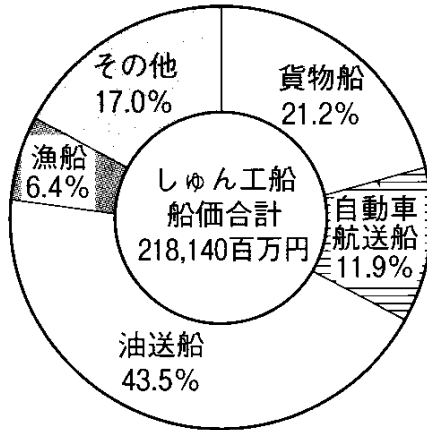
- 1 平成13年度から16年度までの保健衛生対策費の累計は25,000億円を上回っている。
- 2 平成14年度から16年度までのうち、生活保護費の前年度に対する増加額が最も多いのは16年度であり、最も少ないのは15年度である。
- 3 平成14年度から16年度までの各年度について見ると、社会保険費の対前年度増加率は、いずれの年度も3%を上回っている。
- 4 生活保護費及び失業対策費の計について見ると、平成16年度は13年度を6,000億円以上、上回っている。
- 5 社会福祉費について見ると、平成13年度に対する16年度の比率は0.9を下回っている。

【問6】 次の図から正しくいえるのはどれか。

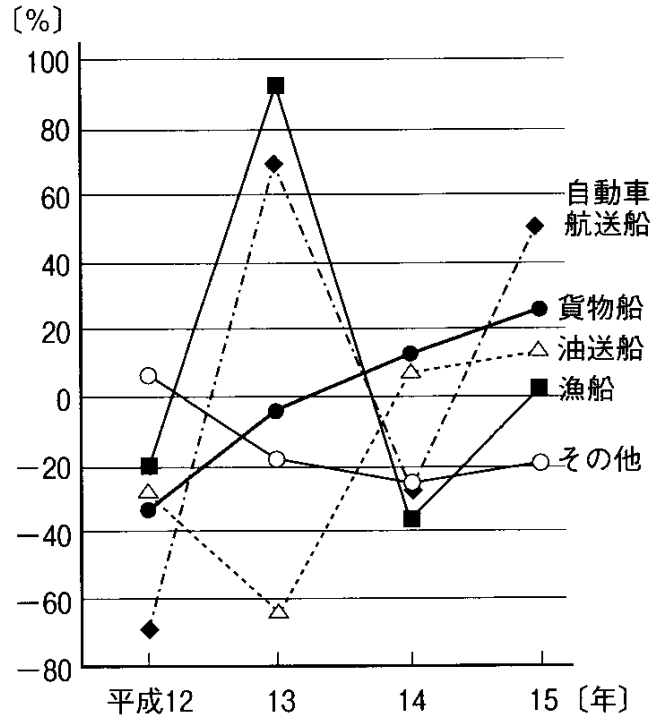
【地上_17年度】 411_3 ‘

わが国の鋼船における国内船のしゅん工船船価の状況

用途別の構成比（平成11年）

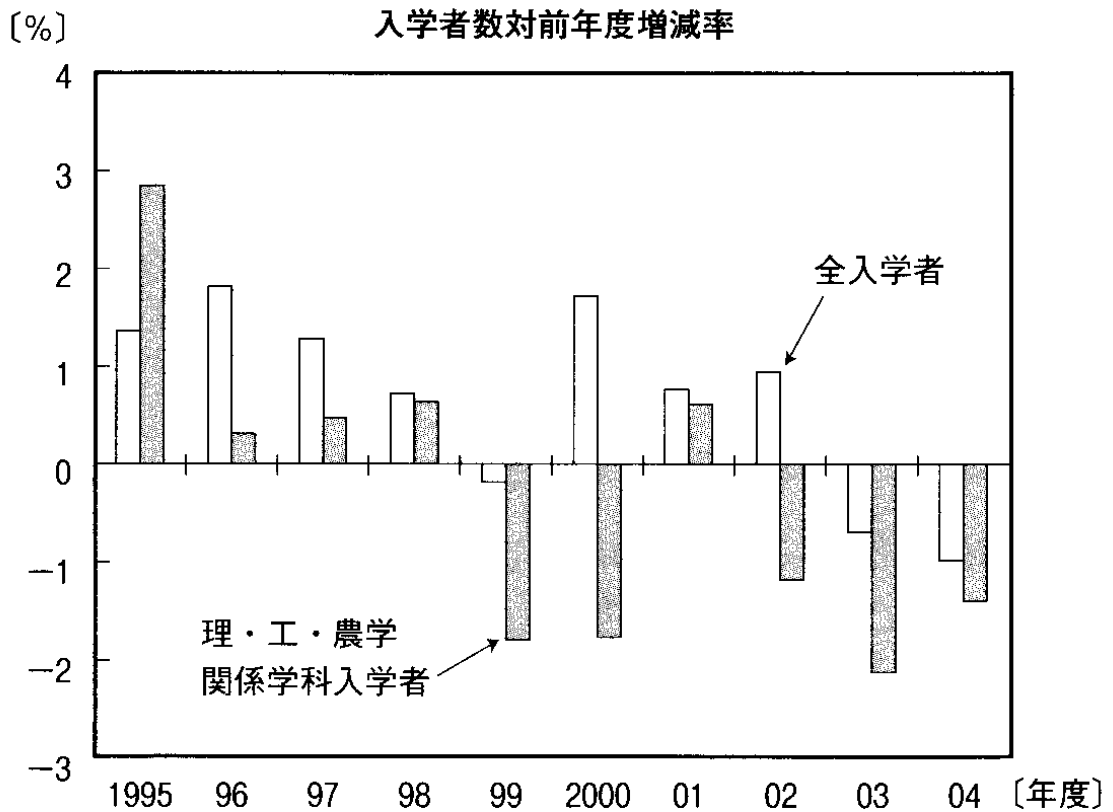


用途別の対前年増加率の推移



- 1 貨物船のしゅん工船船価について見ると、平成11年に対する13年の比率は、0.6を下回っている。
- 2 平成12年におけるその他のしゅん工船船価を指数100としたとき、15年の指数は50を下回っている。
- 3 しゅん工船船価のうち、平成12年に対する13年の増加額が最も多いのは自動車航送船であり、次に多いのは漁船である。
- 4 平成14年のしゅん工船船価について見ると、自動車航送船はその他を上回っている。
- 5 油送船のしゅん工船船価について見ると、平成15年は14年を5,000百万円以上、上回っている。

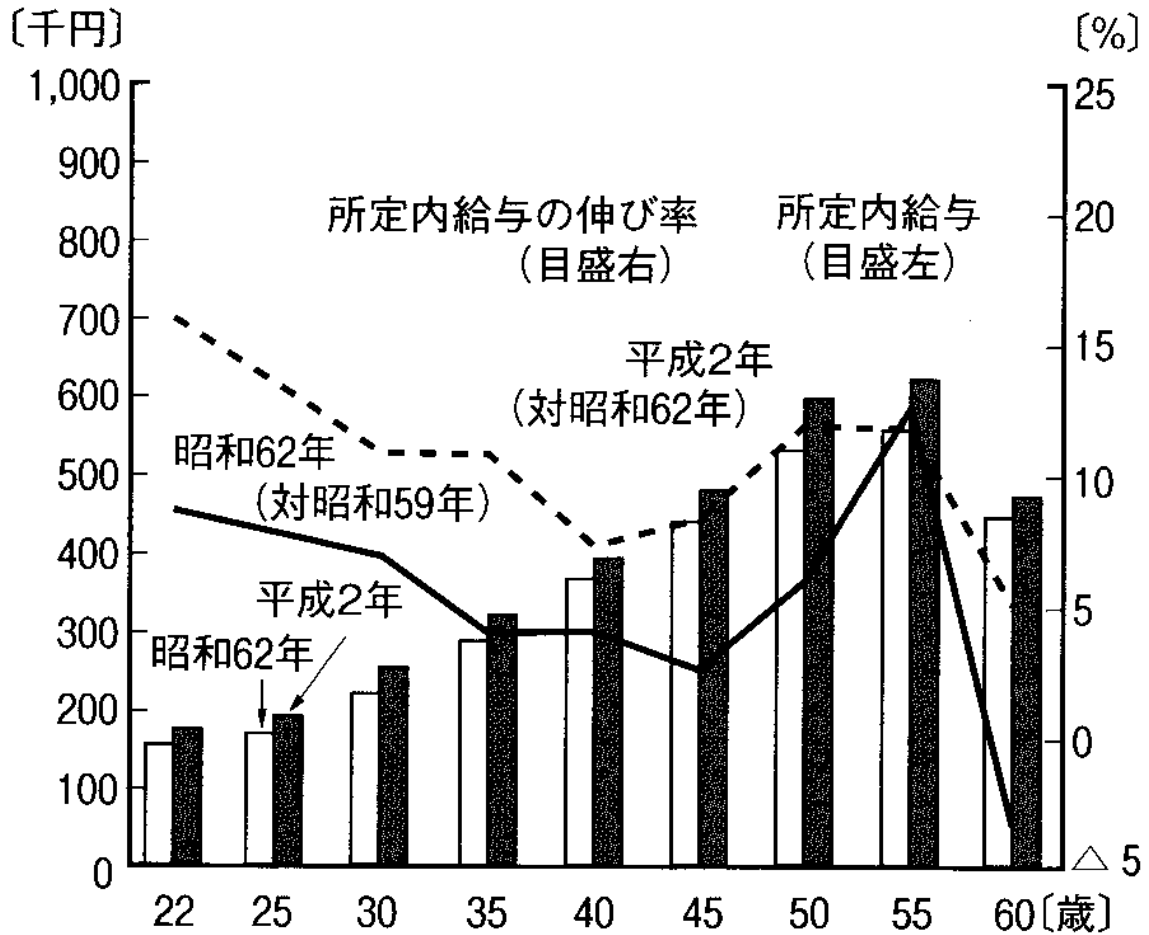
【問7】 図は、我が国の大学入学者数について、全入学者及び理・工・農学関係学科入学者の対前年度増減率の推移を示したものである。この図からいえることとして最も妥当なのはどれか。
【国Ⅱ_18年度】 412_5



出典：『平成17年度 経済財政白書』より引用・加工

- 1 理・工・農学関係学科入学者の全入学者に占める比率は、1995年度をピークに、それ以降一貫して低下している。
- 2 理・工・農学関係学科入学者数は、1995年度をピークにして、年々減少傾向にある。
- 3 2000年度以降、全入学者に占める理・工・農学関係学科入学者の割合は、30%を超えている。
- 4 理・工・農学関係学科入学者とそれ以外の学科の入学者の入学者数の差が最も大きくなったのは、1999年度である。
- 5 理・工・農学関係学科以外の学科の入学者の数が最も多かったのは、2001年度である。

【問 8】 図は所定内給与（製造業・大卒男子）とその伸び率を示したものである。この図からいえることとして正しいのはどれか。 【国 I_5 年度】 419_9



- 1 昭和 59 年の所定内給与と昭和 62 年の所定内給与を比べると、22 歳の増加額は 45 歳の増加額より少ない。
- 2 平成 2 年における 22 歳の所定内給与は、昭和 62 年のそれに比べ約 16%の伸びとなり、昭和 59 年のそれに比べ約 20%の伸びとなった。
- 3 60 歳の所定内給与は、昭和 59 年よりも昭和 62 年のほうが低く、昭和 59 年よりも平成 2 年のほうが高い。
- 4 55 歳の所定内給与は、昭和 59 年には 50 歳のそれを上回っていたが、昭和 62 年になって 50 歳のそれとほぼ同じになった。
- 5 平成 2 年の所定内給与の平均は約 40 万円、対昭和 62 年の伸び率の平均は約 11%である。